

## 埼玉県機械工学系奨学生レポート 平成 27 年 9 月 アメリカンスポーツとインターンシップ

フィンドレーに来て 2 か月がたち、私にも、気軽に家に招待できる親しいアメリカ人の友人や他の国の友人たちが増えました。親交のあるアメリカ人の多くは日本文化や言語の授業をとっている方がほとんどで、積極的に日本語を使って話しかけてくれます。ただ、日本語のニュアンスの違い、例えば「すごい」と「すげー」など砕けた話し方を説明したいとき、なかなか英語で伝えきれない事がもどかしく感じます。

### アメリカンフットボールの試合観戦

アメリカでスポーツと言えば野球・バスケットボール・アメリカンフットボールの3つが挙げられると思います。今月は、大学のアメフトの試合が学生無料という事もあり、私たちの通っているフィンドレー大学の応援に行きました。フィンドレー大学のアメフトチームはオイラーズと呼ばれ、昔この地域で石油が採れていたことからつけられたそうです。試合会場は大学から徒歩 30 分ほどのところにある大学所有のホームスタジアムで行われました。当日は路上駐車が非常に多く、駐車するのも苦労しました。日本ではアメリカンフットボールに触れる機会がなかなかなかったためルール細かい部分はわかりませんでした。体格の大きなアメリカ人の中でも特にガタイの良い人たちを集めたアメフト選手が激しくぶつかり合う姿にとっても興奮しました。最後に逆転勝ちを決めたプレーではオイラーチームの応援席全員が立ち上がり大盛り上がりでした。大学の試合でもこれだけ迫力があつたので、プロの試合もこの留学期間中に見に行ければと思います。ただ、19時から始まった試合はチアリーディングやブラスバンドの演奏も合わせて3時間以上かかったため、帰るころには肌寒いを通り越し、パーカーと短パンで臨んだ私は、試合後半からは震えながら見ていました。最近は暑い日と寒い日が交互に来て体調管理が難しいので、病院のお世話にならないように気を付けたいと思います。



試合風景（黒いユニフォームがフィンドレー大学、白いユニフォームがティフィン大学）

## NBO での仕事について

私たちはアルミニウムを使ったパーツを作るエリアに配属されています。溶けたアルミニウムを型に流し込んでパーツの形に固める鋳造作業や、そのパーツに穴をあけたり不要な部分を切り取ったりするマシニング作業などの手伝いをしています。特に私が好きなのは鋳造作業です。こちらではキャスティングと呼ばれ、何がしたいかを上司から尋ねられた時には真っ先に答える仕事です。キャスティングでは、固められたパーツに傷などがないかをチェックし、傷がある場合は鋳造機械の整備を行います。鋳造作業はほぼ全て機械（ロボット）で行っているためパーツは自動で生成されますが、このチェック作業と整備は手作業で行われます。ほとんどの場合、型にこびり付き取れなくなったアルミニウムが原因で傷がついてしまうため、専用のやすりなどを使い除去します。作業中機械は停止しているのですが、溶けたアルミニウムが先ほどまで流し込まれていた型に手を突っ込まなければならないため、型に触ればもちろんですが、長時間手を入れていただけで火傷しそうなほど熱く、ヒリヒリします。そもそも、キャスティングのエリアはアルミニウムを熱して溶かす機械が近くにあるためか他のエリアに比べて暑いため、季節変わり外が肌寒くなっているにもかかわらず、何もしていなくても汗が流れます。また、作業中のススで、服や肌は黒く汚れます。ススが顔についていることに気づかずに登校して、クラスメイトや先生に笑われたことも何度かありました。

時間があるたびにキャスティングエリアに足を運んでいるためか、会社内でキャスティングを担当している Brian さんと特に親しくなりました。彼が所属しているソフトボールチームの試合観戦に招待されるなど、NBO 内だけでなくプライベートでも親交があります。他にも一緒にfrisbeeゴルフに行ったり、買い物先で出会ったときに声をかけてくれたりなど、現地の作業員とも自然に接する事ができていると感じます。英語を使った工学の勉強も大切ですが、学校での学生同士としての交流だけでなく、異文化を持つ大人とのこのような交流を通して、大人としての付き合い方を学んでいきたいと思ひます。



型についたアルミニウムを剥がす作業

左の方が Brian さんです